

# ARCH

SAISEIKAI NIIGATA KENOH KIKAN HOSPITAL

01

2024.03

済生会新潟県中央基幹病院



## 未来への展望

「地域の保健・医療・福祉施設とともに、住民の健康を支える街づくりに貢献します」を基本方針に掲げる県央基幹病院として、どのように県央地域と関わっていきますか。

病院は地域を構成する一員であり、地域と一体となって街づくりを進めていくことが大切だと思います。

病院は病気の人を診るだけでなく、住民の健康を維持・管理していく場所でもあります。

例えば、健康に関する市町村の施策の立案や遂行のお手伝い、

住民参加の健康講座などを通して医療関係者としての知識、知見をお話できればと思っています。

また、この地域は「ものづくりの街」であることから、産業・商業界との医工連携を進め、

診療の現場で産業関係者と直接意見交換できる場を提供していきたい。

さらに新潟薬科大学との連携により、我々医療関係者も薬への知識をより深く学んでいきたいと思っています。

このように行政、住民との交流を深め、地域の一員として街づくりに貢献し、

そして、この地域にある特徴を活かしていくことが、県央基幹病院の特長にも繋がっていくと考えています。

済生会新潟県央基幹病院 病院長  
新潟県立燕労災病院 病院長

遠藤 直人 ENDO NAOTO

■日本整形外科学会・整形外科専門医

■日本骨粗鬆症学会認定医



## 対 談 5・10年後の 県央基幹病院の姿 医療について

遠藤病院長×新田救急部長・渡邊救急科医長

5年後、10年後に向けたER救急の目指す姿を教えてください。  
また、それに向けてどのような取り組みを考えていますか。

【遠藤】この地域に救急搬送された人を、この地域で受け入れる。つまり「県央地域の患者は県央地域で診る」を達成することが、我々が目指す姿です。県央基幹病院がしっかりとした救急体制を作り、周辺の病院と協力して受口をより広くするという連携システムを構築する。それを5年後・10年後、円滑に継続していることが目標です。そして次世代の人材を育成することも、将来の救急医療にとって重要な責務だと思います。

【渡邊】目指す姿は決まっていますが、今までの県央地域の医療事情とあまりにも大きく異なるので、すぐに実現するのは難しいと思います。持続可能な変化と成長を続けていきながら、一方で進むべきところは進む。そのバランスを調整しながら努力していけば、5年後には「断らない救急」の実現に辿り着くのではないかと思います。

【新田】新潟県は救急医、集中治療医が非常に少ないので、何とか県央基幹病院で増やしていきたいです。ただ県央地域で最初のER救急、集中治療を担うので、まずはしっかりとした医療体制を作る。5年後・10年後のために、この1年をしっかりと取り組んでいくことが大事です。

「県央地域全体で一つの病院」になることを掲げていますが、各病院、診療所、介護・福祉関連施設、行政とともに、隣接する医療圏の病院とどのように連携・協働していきますか。

【新田】病状が安定した患者さんは地域の病院に移っていただき、そこでリハビリなど回復期の診療を行うなど機能に応じた役割分担をしながら、各病院の医師や医療関係者との交流をより密にしていきます。もちろん開業医、保健所、介護施設の方々ともしっかりと連絡を取り合い、お互いの問題点などを常にフィードバックしながら解決策を探っていきたい。また、救急に関しては以前から2カ月に1度、県央地域の病院や消防署、保健・福祉施設、市役所、県の方々も含めた懇談会を開催しているので、今後も続けていければと考えています。

【渡邊】救急外来の患者さんの中には、病气や怪我で困る人だけでなく、社会的に困窮している人もいます。社会のセーフティネットとしてERが役割を果たすこともあります。そこで救い上げた患者さんへまずは当院で診断し、手術や毎回の処置が必要でなければ近隣の病院にお願いするというような、入口の時点での連携も出てくるのではないのでしょうか。

【遠藤】「県央地域の患者を県央地域で診る」が目標ですが、残念ながら当院で担当できる医療は100%ではありません。少し力が及ばない領域については、隣接する医療圏の病院にお願いしたいと思っています。

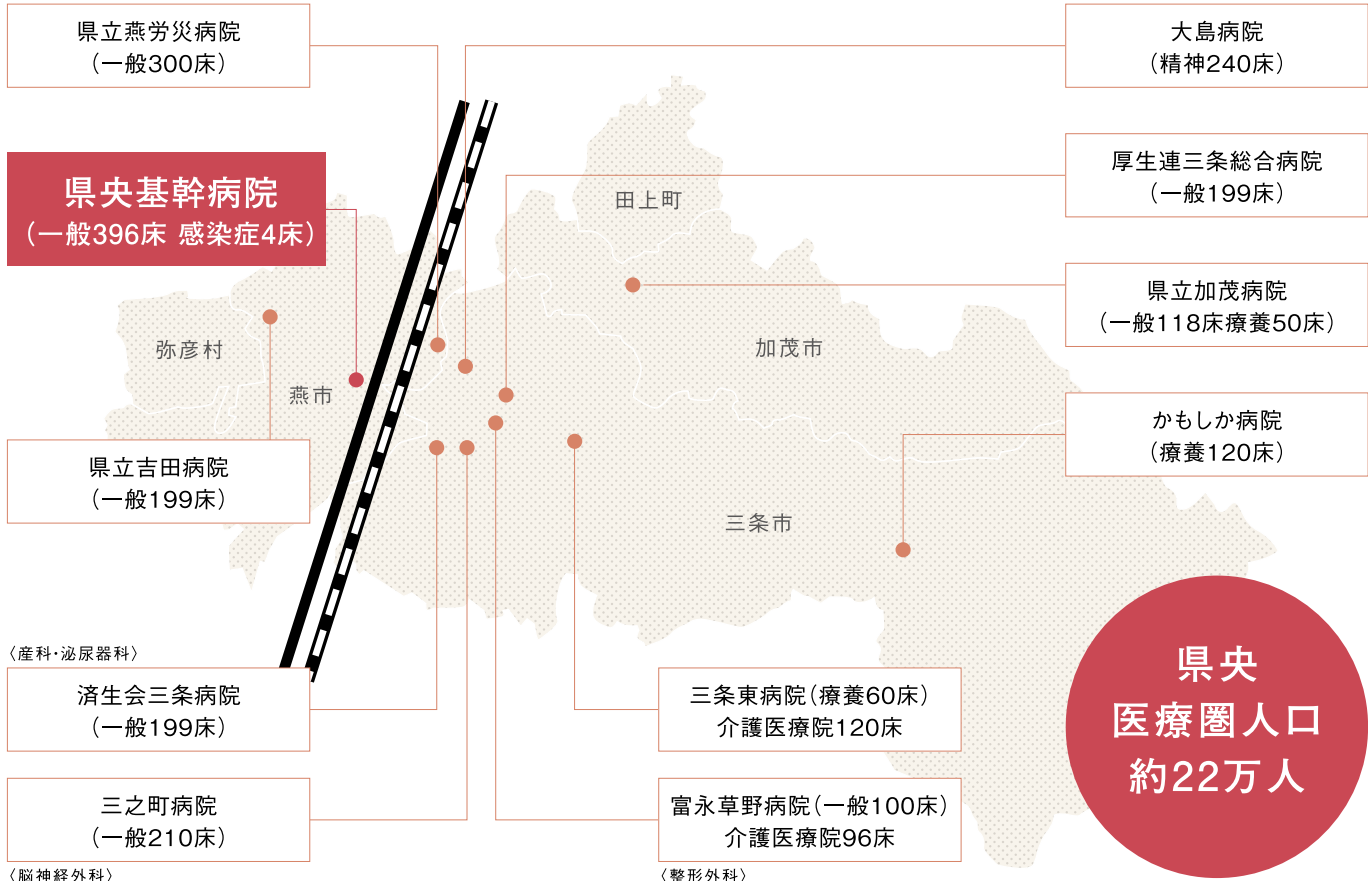
将来を見据え、研修医や若い医師の育成について、どのように取り組んでいきますか。

【遠藤】この地域で自ら次世代の医師、メディカルスタッフを育成していくことが重要です。そのためには十分な研修、経験が積める、しっかりとした指導を受けられる、快適で住みやすい街であるなど、若い医師にとって「ここにきて良かった」と思える環境を整えることが、この地域、病院としての務めだと思います。

【新田】救急科、集中治療科の専門医はともやりのある仕事で、いろいろな科の先生方を助けることもできます。また、他の科の先生方でも一定期間、救急・集中治療を学べる研修体制を作ることができれば、患者さんの診療にも役立ちます。そういう魅力を先生方や若い医師、学生に伝えて人材を育成し、新潟の救急医療、集中医療の発展に貢献できればと思います。

【渡邊】病院にとって教育こそ一番大事な責務だと思います。研修医も含めて学習者が病院にとっての宝ではないでしょうか。教えることを無償で提供することで、学びたい人が集まってくれる。学んでいる人の姿を見て、また次の学びたいと思う人が来てくれるという、いい循環が生まれますよね。そうした循環が、病院と地域の活性化に繋がればと思っています。

# 県央医療圏



対策（目標達成に向けて）

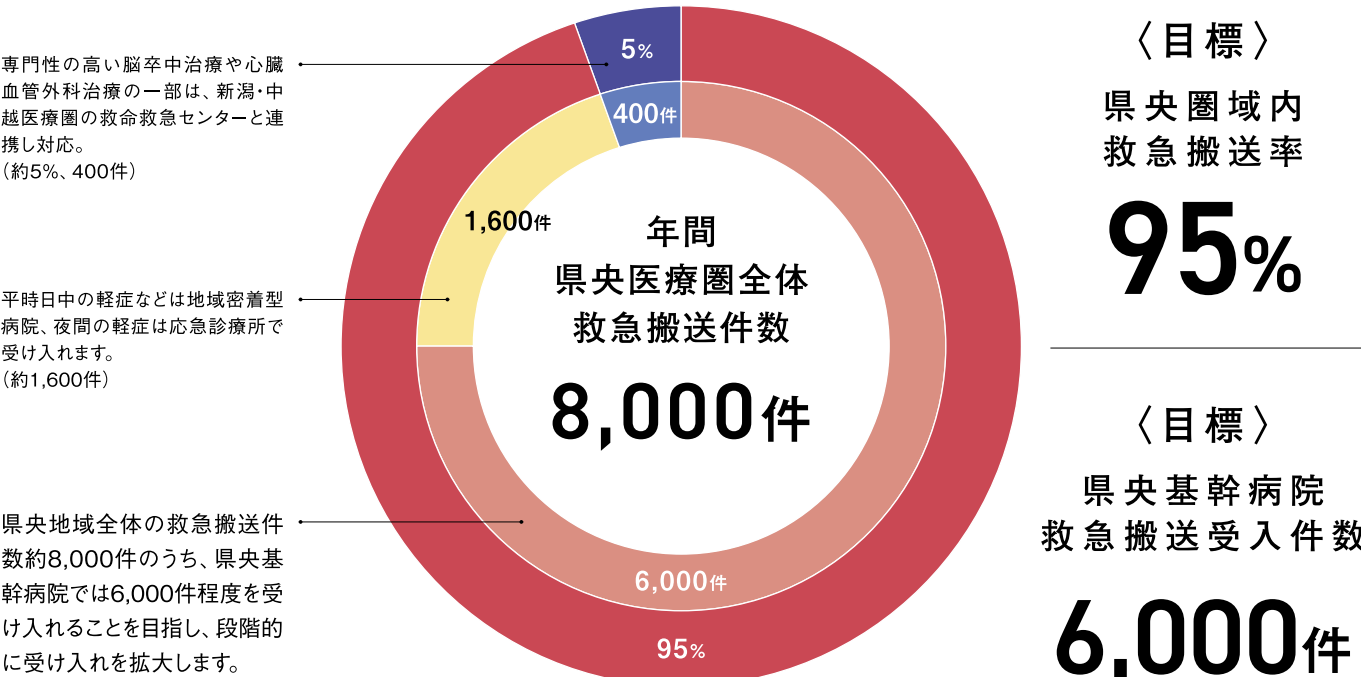
済生会新潟県央基幹病院は、県立燕労災病院と厚生連三条総合病院を統合し、県立吉田病院、県立加茂病院、済生会二条病院の急性期の機能を集約します。なお3病院は、地域のニーズに合わせて地域密着型病院へと機能転換します。県央医師会応急診療所、既存の民間病院、診療所と連携し、それぞれの医療機関の有する機能に応じた役割分担と円滑な協働によって「地域全体で1つの病院」を目指します。

救急医療において重症患者だけでなく、中等症や軽症までのすべての患者を受け入れるため、「ER」救急(Emergency Room:救急治療室)を導入しました。救急車の受け入れは、県央地域全体件数約8,000件のうち、6,000件程度を受け入れることを目指します。

県央医療圏での役割分担として、医療ニーズの多い入院（後期高齢者・軽症患者等）・外来については地域包括ケアを支える地域密着型病院（済生会三条病院、県立加茂病院、県立吉田病院）等に対応し、救急医療や高度・専門的な手術、外来が必要となったときには、県央基幹病院にて、より専門的な医療を提供します。

臨床研修指定病院として、研修医教育に力を入れていきます。その他、医学生の臨床実習の受け入れや専攻医の育成にも取り組んでいきます。各科で経験豊富な指導医が指導にあたり、若手医師がキャリアと技術を築くための教育・研修体制を整えています。

県央圏域内 救急搬送率95%達成に向けて



### 〈 現状の課題 〉

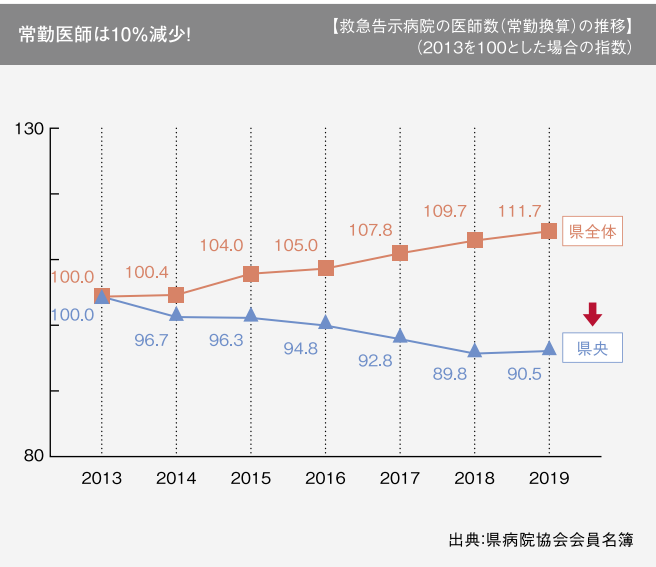
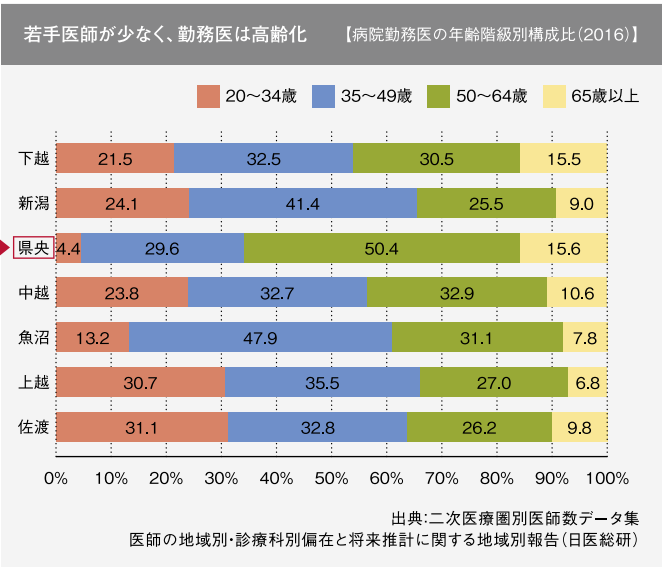
【県央圏域内で救急医療対応ができていない】

県中央医療圏約8,000件の救急搬送のうち、約25%が医療圏外へ搬送されています。中小規模の病院が多数存立し、医師の分散や常勤医師の減少(特に若手医師)、高齢化等から、救急車の受入が縮小・困難となり、救急搬送時間が長時間化。診療科、診療日も減少しています。

【医療ニーズの変化(高齢者医療への対応)】

75歳以上の人口は今後も増加していく見込みです。

高齢者患者の特徴「多病、多様、非定型」に対応できる持続可能な医療体制の構築が必要になってきます。





社会福祉法人

恩賜  
財団

済生会新潟県央基幹病院

〒955-0091 新潟県三条市上須頃5001番地1

TEL.0256-47-4700 FAX.0256-33-8808

<https://www.kenoh.saiseikai.or.jp/>

病院のサイトには  
右記QRより  
アクセスしてください

